



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.8.24 No. 41050

櫻井前環境庁長官の「暴言」弾劾

櫻井がさげる 閣僚の暴言 侵略戦争 美化!

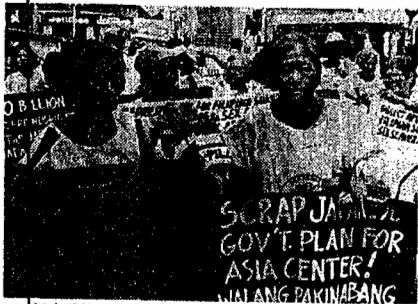
時の問題

「日本は侵略戦争をしようと思っただけではない。むしろアジアは、そのおかげでヨーロッパ支配の中からほとんどの国が独立した!」

(櫻井前環境庁長官・八月十二日)

何という侵略戦争への居直りか。われわれ日本の労働者として本当に恥ずかしい!三千万人ともいわれるアジアの民衆を殺し、焼きつくし、奪いつくしてきたアジア太平洋戦争について、それへの反省も償いも行わず、逆に居直り、「南京虐殺はでっちあげ」(前永野法相)、そして今回の櫻井暴言。われわれ日本人としてアジアの民衆に対してこのような発言が閣僚によってなされていること自体本当に申し訳ないと思う。この気持ちは正義の感覚、良心をもつ者なら共通して感じていることではないだろうか。

われわれは断じて櫻井暴言を許してはならない。アジアの民衆の即座の激しい弾劾とたたかいに真剣に応えること。そのことは、日米による新たな朝鮮侵略戦争を阻止する



村山政権のアジア交流センター設置案に反対し個人への補償と謝罪を求める元従軍慰安婦のデモ

ために一人一人が考え、行動にたつことでもある。

櫻井・永野の暴言は国家意志だ。

四月、永野「十五年戦争は、アジアの解放のための」、八月、櫻井「アジアはそのあかげ(侵略戦争)で独立できた」。ここに共通していることは、「日本が行った戦争は侵略戦争でない。アジア解放の戦争だ」とする極めて意識的で、政治的意図(過去を清算し、新たな侵略に乗り出すというもの)に貫かれたものであり、たまたまの失言などでは決してない。つまり国家の意志をそのまま表現したと断言できる。

村山政権は、アジアの民衆の糾弾においつめられ櫻井を辞任させた。しかし問題は何一つ解決していない。これからの日本の民衆のたたかいこそが問われているのである。

反戦・侵略阻止の声を! 行動を!

村山首相は、櫻井を辞任させたものの、アジアの民衆の戦争責任追及・戦後補償要求につい

て、「サンフランシスコ条約等で解決済み」と、居直りつづけるながら、東南アジア歴訪に出かける。

村山政権の犯罪性は、村山・社会党を仮面にして、あたかも戦後補償や戦争責任に「応える」かのような装いをもって、実はこれらを全面拒否し、敗戦五十年を節目に「過去を清算」しようとしている日本支配階級の意志を体現しようとしているところにある。

要するに、従来の政府方針をそのまま受け継ぎ、軍隊慰安婦など当事者への「個人補償」をも切り捨てるという到底認められない態度をとっているのである。

村山首相の東南アジア歴訪の問題の核心は、「責任」についての居直りばかりか、今年十二月予定されているチームスピツ

ト米韓合同演習に積極的に「介入」し、日本の朝鮮侵略戦争体制を強めようとしていることである。朝鮮情勢は、金日成死去を契機に背後では、グイグイと侵略戦争策動が強められている中、日本支配階級は、九十年代後期のアジア支配の覇権をかけた、そのための主導権を握るために、全力を傾けているのが現実の姿である。

「村山政権は“平和”を語りながら、戦争政策をつよめている。自民党単独よりも悪質。私たちは、あくまでも反戦のため「ここでふんばる」(郡司とめ 反対同盟婦人行動隊長)

三里塚をはじめ、全国でたたかう人々の意気込み・決意に込め、連帯の輪をさらに広げよう。当面、九・一八労働者集会の圧倒的成功のためにがんばろう。

9.18

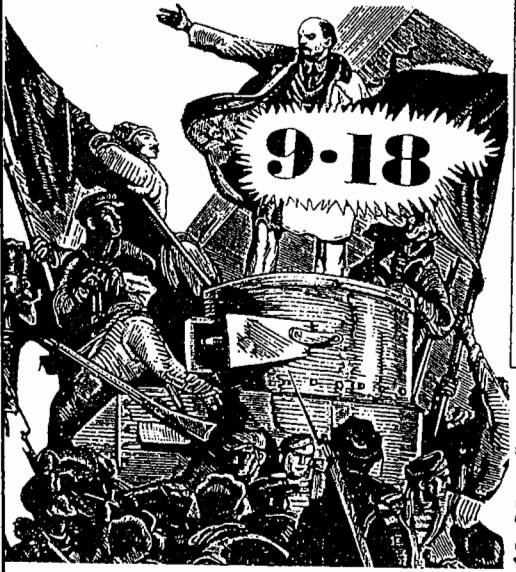
たたかう労働運動の新しい潮流をめざす

9.18労働者集会

★記念講演：岩井 章
★基調報告：中野 隆

【とき】九月十八日(日)午後一時
【ところ】東京都勤労福祉会館
【指定列車】千葉駅発快速十一時三九分

労働者 千葉



労働運動を担う反核・反戦・運輸保安確立・反合